

# IMF サーベイ

IMF ユース・ダイアローグ

## IMF が日本人学生向け英文エッセイ コンテストを開催

IMF サーベイ・オンライン  
2012年6月14日



シャフィク IMF 副専務理事（左から3番目）及びワシントン DC で開催された 2011 年 IMF・世界銀行年次総会ユース・ダイアローグの参加者（写真：IMF）

- 英語による 500 ワードのエッセイの提出締切は 8 月 3 日（金）
- トピックは "Youth perspectives on the global economy and the role of the IMF"（世界経済及び IMF の役割に関する若者からの意見）
- 最終選考者には証書を進呈。最優秀者 2 名はパネルディスカッションのユース・ダイアローグに参加

このコンテストの 2 名の最優秀者は、10 月に東京で開催される 2012 年 IMF・世界銀行年次総会期間中に、ネマト・シャフィク IMF 副専務理事及び他のアジア・太平洋地域のユース/学生の代表と共に、パネルディスカッションのユース・ダイアローグに参加する。ユース・ダイアローグは、NTV と NHK により放映される。また、最優秀者は 2013 年にワシントン D.C. で開催される IMF・世界銀行春季会合にも参加することができる。

シャフィク IMF 副専務理事は、「若者は世界的な金融危機では第三者的な立場にある。しかしながら、今日下される決断が彼らの雇用の展望、彼らが返済する債務、そして成人になってからの人生の大半に関わる経済環境を決定する。

そのため、IMF は世界経済について、そして若者が確実に明るい未来を送れるようにするには世界経済をどのように形作れば良いかという点について、若者の意見に耳を傾けたい」と述べている。

このコンテストは、IMF、日本の財務省と日本銀行の共催で、日本国籍を有する大学生・大学院生に参加資格がある。エッセイのトピックは "Youth Perspectives on the Global Economy and the Role of the IMF" で、英語で執筆するものとする。提出期限は、8 月 3 日（金）とする。

参加者から 6-8 名の最終選考者を選び、その中から最優秀者を 2 名選出する。最優秀者のエッセイは、IMF、IMF アジア太平洋地域事務所、日本の財務省、日本銀行のホームページに掲載される。

10月12-14日に開催される東京総会には14,000人以上の参加者が見込まれる。同総会の開催週に、IMFは世界経済の見通しと分析結果を発表し、各種セミナーを主催する。

今年日本は、IMF加盟60周年を迎える。日本が年次総会を主催するのは、1964年に続き二度目である。年次総会では、世界の財務大臣、中央銀行総裁、政府高官、及びシンクタンクと民間部門の代表が一堂に会する。